

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

愛媛県立宇和高等学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

高校1年生・ホームルーム活動

目標・人権教育のねらい

- ・差別やいじめがおこる仕組みを理解させるとともに、それを許さず解消しようとする意欲や態度を養う。
- ・自他のよさや可能性に気付かせ、互いを認め合い、尊重し合う意識を高める。

実施した内容

- ・人権とは何か、差別やいじめとは何かを知る。
- ・差別やいじめは、どのような時、なぜ起こるのかを考える。
- ・リフレーミングの活動を通して、自分や他者の長所を意見交換し、自己肯定感を高め合う。
- ・誰もが安心して自分らしく過ごすことのできるクラス・学校づくりについて考える。

工夫した点

- ・リフレーミングの活動を設定し、相手の立場に立って、共感的な言葉掛けにするにはどうすればよいかグループで話し合った。

他教科との
関連

- ・「現代の国語」の授業においてもリフレーミングを含むコミュニケーションの手法について学んだ。

事業成果

- ・知的側面：自尊感情・偏見など、人権問題の解決に必要な概念に関する知識が身に付いた。
- ・価値的・態度的側面：自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を養うことができた。
- ・技能的側面：他者と対等で豊かな関係を築くことのできるコミュニケーション能力が身に付いた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

愛媛県立宇和高等学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

高校1年生 家庭総合

目標・人権教育のねらい

- ・ 共生社会の一員として、男女の個性や違いを認め、協力して家庭生活を築いていく意識と責任感を持たせる。
- ・ 男女共同参画社会の実現には、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が不可欠であることを理解させる。

実施した内容

- ・ 「男女共同参画度」チェックをし、自分自身の男女差別意識を知る。
- ・ 日本の男女参画をめぐる法律や制度の歩みについて学習し、性別に関わらず誰もが生き生きと暮らすために必要なことを考える。
- ・ 自分は家庭の中でどんな役割が果たせるか、ロールプレイングを通して考え、発表する。

工夫した点

- ・ 各家庭の背景に配慮しながら、自分の家庭の家事労働を調査し、性別役割分業意識が存在することを理解させ、身近なところから改善策を考えさせた。
- ・ 日本のジェンダーギャップ指数が低いことや、女性の労働力率がM字曲線になる理由を考えさせた。

他教科との
関連

- ・ 「法の下での平等や性別による差別の禁止」（第14条）、「家庭生活における個人の尊厳と両性の平等」（第24条）など、地歴・公民科の授業での基本的人権について学習と関連付けた。

事業成果

- ・ 知識的側面：ライフ・ワーク・バランスのとれた社会の実現に必要なことを理解できた。
- ・ 価値・態度的側面：男女が協力して家庭生活の役割を果たそうとする態度が見られた。
- ・ 技能的側面：家庭生活を営むために必要な衣食住・保育に関する技術を体験的に習得した。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

愛媛県立宇和高等学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

高校1年生・外国語

目標・人権教育のねらい

- ・障がいのある人が車いすで旅した国々で接した人々の、温かいまなざしや思いやりに触れ、共生社会の一員として、自分にできることを考えさせる。
- ・積極的に人に話しかける勇気を持つことが、世界を変える一歩につながるという意識や態度を養う。

実施した内容

- ・主人公が車いすで世界を旅することを決心した心情について考える。
- ・各国の観光地のバリアフリーの状況について比較し、日本の課題について考える。

工夫した点

- ・SDGs目標11「住み続けられるまちづくりを」と関連付け、世界各国の観光名所を社会福祉の視点から調べた。
- ・バリアフリーは、設備などの物理的な問題だけでなく、人々の心の問題でもあることを認識させた。

他教科との
関連

- ・総合的な探究の時間との関連を図り、SDGsやバリアフリーについて生徒が課題を設定し、新聞記事を活用して学習に取り組んだ。

事業成果

- ・知識的側面：社会こそが障害をつくっており、それを取り除くことが社会の責務であることを理解した。
- ・価値・態度的側面：障がいの有無に関わらず自他の価値を尊重しようとする考え方が身に付いた。
- ・技能的側面：他者を理解し、適切な自己表現ができるコミュニケーション能力の必要性について理解した。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

愛媛県立宇和高等学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

高校2年生・ホームルーム活動

目標・人権教育のねらい

- ・人権獲得の歴史を学び、現在も差別解消の取組が続いていることを理解させる。
- ・同和問題を自分のこととして捉え、その解決に向けて行動する態度を養わせる。

実施した内容

- ・差別のおこりと差別が強化された過程を学習することを通して、部落差別の不合理さについて意見交換する。
- ・「水平社宣言」から、あらゆる人間の平等と差別からの解放について考える。
- ・戦後の解放運動の趣旨や、同和対策事業の目的とその成果を理解する。

工夫した点

- ・導入で島崎藤村の『破戒』が60年ぶりに映画化されたことに触れ、主演俳優のインタビューの視聴を通して、同和問題への関心をもたせた。
- ・愛媛県における水平社運動の展開を取り上げた。
- ・平等な社会を実現するために差別と闘った先人の生き方に共感させるとともに、差別をなくす取組が全ての人の人権の保障につながることを理解させた。

他教科との
関連

- ・国語科の授業でも、島崎藤村の『破戒』を取り上げ、ホームルーム活動での学習内容を振り返りながら、学習した。

事業成果

- ・知識的側面：人権獲得の歴史について理解を深めた。
- ・価値・態度的側面：差別と闘った人々の生き方に学び、差別解消に向かって行動しようとする態度が身に付いた。
- ・技能的側面：同和問題を科学的に認識し、差別を許さない態度を身に付けた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

愛媛県立宇和高等学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

高校3年生・ホームルーム活動

目標・人権教育のねらい

- ・就職や進学で公正な選考が行われることの大切さや、どのようなことが差別選考につながるかを理解させ、選考の際の不適切な質問等への対応の仕方を身に付けさせる。
- ・偏見や世間体によって起こる結婚差別にどう対応すべきか考え、差別解消のために行動する力を身に付けさせる。

実施した内容

- ・全国高等学校統一用紙の意義や「就職差別につながるおそれのある項目」について理解するとともに、不適切な質問等への対応の仕方を考える。
- ・県内で起こった結婚差別の体験手記をもとに、結婚差別の不合理性を理解するとともに、差別に出合ったときにどう行動するかを考える。

工夫した点

- ・就職差別の事例について、ロールプレイングや模擬面接で疑似体験し、自身が直面したときの対応方法を具体的に考えさせた。
- ・市内の『人権に関する市民意識調査報告書』から、結婚差別は人権教育などの様々な取組により減少傾向であることや、今なお差別意識が残っていることを自覚させ、自分事として考えさせた。

他教科との
関連

- ・総合的な探求の時間で、進路保障の観点から就職差別について考えた。
- ・「家庭生活における個人の尊厳と両性の平等」（第24条）など、地歴・公民科の授業での基本的人権についての学習と関連付けた。

事業成果

- ・知識的側面：自分事として考える授業を通して、差別解消に必要な知識を身に付けた。
- ・価値・態度的側面：誰もが幸せな社会の実現に向けて、主体的に関わろうとする態度を身に付けた。
- ・技能的側面：他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を身に付けた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

愛媛県立宇和高等学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

高校3年生・ホームルーム活動

目標・人権教育のねらい

- ・ 偏見をなくし、他を排除するのではなく尊重し合うことで互いを理解しようとする態度を養う。
- ・ 共生社会の一員として、互いを理解し合い、円滑な社会生活を築こうとする意識をもたせる。

実施した内容

- ・ 人権教育ドラマ「外国人と人権～違いを認め、共に生きる～」を鑑賞し、外国人への偏見や差別が生じる理由、それらを解消するために自分にできることを考えた。

工夫した点

- ・ 「家庭・地域でみられる偏見や差別」、「職場で見られる偏見や差別」、「ヘイトスピーチ」、「多文化共生社会をめざして」とオムニバス形式の人権教育ドラマを選定し、自分がその立場に置かれた場合を想定させ、自分事として考えさせた。

他教科との
関連

- ・ 地歴・公民の授業で、世界には多様な文化、習慣、価値観があることと関連付けて学習した。
- ・ 英語の授業で、外国人の人権問題を取り入れ関連付けて学習した。

事業成果

- 知識的側面：文化や習慣に対する理解不足等が偏見や差別の原因になっていることを理解した。
- 価値・態度的側面：互いの文化や習慣を理解し、相手のことを知ることが大切であるという態度が身に付いた。
- 技能的側面：多様な人々と対等で豊かな関係を築いていくための技能が身に付いた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

愛媛県立宇和高等学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

高校1年生・ホームルーム活動

目標・人権教育のねらい

- ・ハンセン病に対する偏見によって、差別が根強く残されたことを認識させる。
- ・差別を受けてきた人たちの思いに共感し、一人一人が差別解消に主体的に取り組もうとする態度を身に付けさせる。

実施した内容

- ・ハンセン病問題の基本的な事柄や歴史的背景について理解する。
- ・ハンセン病回復者である西予市出身の詩人、塔和子さんの生涯を通して、厳しい差別の現状を知るとともに、塔さんが大切にしていたものについて考える。
- ・偏見や差別をなくしていくために自分たちにできることを考える。

工夫した点

- ・塔和子さんの作品を読み味わうことを通して、塔和子さんの心情を考えさせた。
- ・地元広報『せいよ』を教材として用い、塔和子さん本人や家族、地域の人々の言葉からハンセン病への偏見や差別によって奪われたものについて自分事として考えさせた。

他教科との
関連

- ・国語科の授業において、詩人としての塔和子さんの文学史的立ち位置を紹介する。

事業成果

- ・知識的側面：人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識が深まった。
- ・価値・態度的側面：被差別の立場に立って考える活動を通して、他者の価値を感知する感覚が養われた。
- ・技能的側面：他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性が高まった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

愛媛県立宇和高等学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

高校1年生・情報Ⅰ

目標・人権教育のねらい

- ・インターネットの「公開性」「記録性」「信憑性」等の特性を理解させるとともに、インターネット上での相手の人権を尊重する態度や、情報モラルを身に付けさせる。
- ・インターネットによる人権侵害に対して自分にできることを考えさせ、意思決定をする取組を通じて、偏見・差別を許さない態度を育成する。
- ・インターネットによる人権侵害の現状や課題、啓発活動を実施している機関の取組について理解させる。

実施した内容

- ・自分たちのSNSの利用の様子について話し合い、SNSの利用の利点や問題点について考える。
- ・文部科学省の情報モラル啓発動画を視聴してSNSを利用する上での課題を共有し、シミュレーターを利用して、自分たちにできること考える。

工夫した点

- ・SNSのマイナス面、プラスの面の両面に着目させた。
- ・SNSのシミュレーターを利用して、SNSで発生するトラブルを体験させた。
- ・インターネットによる人権侵害の相談窓口を確認し、トラブルに対応する方法を共有した。

他教科との
関連

- ・ホームルーム活動等を通して、自他ともに大切にしようとする人権尊重の態度を身に付ける。

事業成果

- ・知識的側面：インターネットによる人権侵害の特性とその対応を理解した。
- ・価値・態度的側面：人権の観点から自分の行為に責任を負う意志や態度を育成できた。
- ・技能的側面：適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能を身に付けた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

愛媛県立宇和高等学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等

高校1年生・家庭総合

目標・人権教育のねらい

- ・多様な性の在り方について理解させる。
- ・身体的にも、精神的にも、社会的にも本人の意思が尊重され、自分らしく生きるために必要なことは何かを考えさせる。

実施した内容

- ・LGBTを含め多様な性の在り方について理解するとともに、彼らの抱える困難やその原因について考える。
- ・自分の体に関することを自分自身で決められる権利（性と生殖に関する権利）について理解させ、一人一人が自分らしく生きるためにできることを考える。

工夫した点

- ・性的指向・性自認の概念について理解させ、LGBTなどの性的マイノリティ当事者の抱える問題を自分のこととして考えさせる。
- ・性的マイノリティの人々が直面している困難等について、どのような配慮が必要か考えさせる。

他教科との
関連

ホームルーム活動等を通して、自他ともに大切にしようとする人権尊重の態度を身に付ける。

事業成果

- ・知識的側面：多様な性のあり方について正しく理解することができた。
- ・価値・態度的側面：自分や他者の性を大切にし、互いに尊重し合うことの大切さを理解した。
- ・技能的側面：性に関わる偏見や差別に気付き、配慮した関わり方を身に付けた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

愛媛県立宇和高等学校

人権課題

その他
(アンネのバラをめぐる平和学習)対象学年・
取り扱った教科等

高校1年生・ホームルーム活動

目標・人権教育のねらい

- ・「アンネのバラ」にまつわる歴史的事象や背景について学ぶことを通して、人権尊重や平和への意識を高めさせる。
- ・「アンネのバラ」に込められた願いや彼女の生涯を知ることを通して、自分たちに何ができるか、今後どのように生きるべきかを考える。

実施した内容

- ・「アンネのバラ」が本校にある由来を知る。また、歴史総合の教科書よりユダヤ人迫害の歴史について学ぶ。(2時間)
- ・アンネ・フランクの生涯を知り、アンネの日記・「アンネのバラ」に込められた思いや願いを感じることを通して、自分たちに何ができるか、今後どのように生きるべきかを考える。(1時間)

工夫した点

- ・現在も世界で戦争が続いていることを導入で取り上げ、「平和」の尊さについて自分事として受け止められるようにした。
- ・端末を活用し、生徒それぞれが撮影した「アンネのバラ」をワークシートやスライドに使用した。
- ・本校の「アンネのバラをめぐる平和学習」の歴史について元本校職員に聞き取りを行った。

他教科との
関連

- ・この授業の学びを振り返らせながら、ユダヤ人迫害について歴史総合の授業を展開した。

事業成果

- ・知識的側面：ユダヤ人への人権侵害に関する歴史などの知識を身に付けることができた。
- ・価値・態度的側面：人権尊重や平和に向かって活動しようとする意欲や態度を養うことができた。
- ・技能的側面：「アンネのバラ」をめぐる平和学習の成果を発信する技能を身に付けた。